

(別紙様式1)

平成25年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

学 校 名	東白川村立東白川小学校		
実 施 期 間	平成25年11月15日(金)		
実 施 概 要	◎金銭教育協議会の開催 平成24.25年度県金融広報委員会から委嘱された金銭教育の公表会を、保護者・地域関係者に公開する。 ・金銭教育視点で設定した授業を全学級で公開する。 ・講師の先生を招き、村の実態を踏まえた金銭教育の講演会を位置づける。		
実 施 内 容	学習・取組の分野 <input type="checkbox"/> 自然 <input type="checkbox"/> 歴史 <input type="checkbox"/> 文化 <input checked="" type="checkbox"/> 産業 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ----- 公開の方法 <input checked="" type="checkbox"/> 授業公開 <input type="checkbox"/> 成果発表 <input type="checkbox"/> 交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会等 <input type="checkbox"/> 地域行事等参加 <input type="checkbox"/> その他		
来 校 者 数	保 護 者	55人	計 72人
	地域関係者	17人	
実 施 状 況	金銭教育の研究推進に当たり「そこに込められた気持ちがわかり、合理的に考えて、ものやお金を大切にすることができる児童の育成」をテーマとして取り組んできたことを、授業と全体会・講演会で保護者・地域関係者に公開し、金銭教育の重要性を考える場とした。 授業では、ふるさとの産業や経済と直結した内容を公開。(特別支援学級の生活単元学習で「おみせやさん」、3年生の社会で「店ではたらく人」、5年生の家庭科で「上手に使うものとお金」、6年生の総合的な学習で「村おこし」)また、1・2年生の生活科で「ものを大切にすること」、4年生は算数で「合理的に考える」ことを視点として公開した。 全体会ではこれまでの取り組みの成果を発表し、講演会では岐阜県金融広報委員会アドバイザーの岐阜大学教授大藪千穂氏による「金銭やものに対する健全な価値観を養うために」を演題として講演いただいた。		
成 果 及 び 課 題	○村長をはじめ村の行政や教育関係者、多くの保護者の出席を頂き、村の子の金銭教育を考える場となった。商店も少なくお金を使う経験が少ないが、中学校卒業と同時に村を出て、都市部の高等学校で寮生活や下宿生活を始めるものが少なくない村の子どもに対して、金銭教育が大切な視点であることの認識が広まった。 ――保護者の方からの感想―― ・生きていく上で大切な授業だと思いました。6年生の授業は私にもよく分かりました。自分の住んでいる村にどんな仕事があるのかを知るとはどんどん減少していく村民の問題として、一番大切な事だと思いました。 ・金銭についての講演を初めて聞きました。これをきっかけにして家族での話し合う機会が増えると思いました。 ・金銭に関することや金銭が生活に深く関わっていることについての学習を、各学年で行っていることが良く分かりました。東白川村には、実際にお金を使う場所や機会が少ない状況です。小学校からお金に関する知識や経験を積むことにより、生活がより良くなる使い方や工夫、考え方ができるきっかけになれば良いと思います。またお金に対する考えや家計を見直す機会になりました。 ○研究は今年度で終わるが、金銭教育の視点を今後も大切にしていこうことや、さらに家庭や地域にその取り組みを発信していくことが大切になる。		